

貴重な資料や展示物をじっくりと見て回る来場者



博物館の活動内容を公開 SCパルで博物館移動展

市立博物館の資料や研究成果を公開する博物館移動展は2月27日から3月1日の3日間、江釣子ショッピングセンターパルで開催されました。

昨年9月に実施した企画展「北上の清水物語」の一部を展示したほか、民俗村の見どころをスライドで紹介するなど、博物館を身近に感じる機会となりました。

買い物のついでに訪れたという八重樫博さん(立花)は、「北上の清水がこのように研究されているとは知らなかった。それぞれの水の効能など、とても興味深い」と話し、展示資料に見入っていました。

煤孫地区が映画ロケ地に 旧沢内村の様子を再現

大澤豊監督の映画「いのちの山河～日本の青空Ⅱ～」の撮影は2月22日と26日、市内で行われました。

映画は、生命の尊重を信念とした旧沢内村村長、深澤晟雄さんの奔走ぶりを描いた物語。22日はみちのく民俗村で、26日は旧下煤孫公民館・旧煤孫小学校で撮影が行われ、当時の沢内村の様子が描き出されました。エキストラとして参加した佐藤法可君(いわさき小6年)は、「初めてでちょっと難しい。役者の気持ちがあった」と、雪の中を一生懸命走り回っていました。映画は夏の上映を目指して制作中です。



旧下煤孫公民館を当時の沢内村役場に立て、除雪シーンを撮影

地域のCMづくりに挑戦 黒岩児童オリジナルCM

黒岩地区交流センター主催、北上ケーブルテレビ共催のデジタルCMづくりは2月21日と28日、同センターで行われました。参加者は黒岩小6年生6人。カメラ取材から編集まで自分たちの手で行い、地域の魅力発信に向け作品づくりを進めていました。

参加した及川遼君は「お滝さんの水が流れる様子や白山神社の冬景色を撮影し、インタビューもした。カメラを使ったことがないので難しかった」と話し、編集作業に熱中していました。子どもたちが制作したCMはケーブルテレビなどで放送する予定です。

自分たちで取材した素材を基に編集する子どもたち



各地域の自慢の味を買い求める客でにぎわう会場

北上西和賀の物産を満喫 にぎわいフェアが盛況に

北上・西和賀にぎわいフェアは2月27日と28日の両日、北上駅前のおでんせプラザ「ぐるーぶ」地階で開催されました。

会場には、北上と西和賀の特産品即売コーナーがずらりと並んだほか、秋田の漬物や稲庭うどんなども販売され、来場者であふれかえりました。また、もろまきや多彩なステージ発表も行われ、イベントを盛り上げていました。

28日には、大好評の生マグロ解体ショーと販売が行われ、人気を集めていました。

身近な製品が地元企業で作られていることに関心を示す来場者



頑張れ！ものづくり企業 北上地域の製造業を応援

県南広域振興局北上総合支局、北上市、西和賀町などが主催の「がんばろう！岩手∞ものづくり応援フェア」は13日から15日の3日間、江釣子ショッピングセンターパルで開かれました。

世界的不況の中、北上地域の「ものづくり」企業を応援し、地域活性化を図るため開催。北上、西和賀、金ヶ崎、花巻の製造業10社が出展し、工業製品の展示や販売が行われました。また14日と15日には、ものづくり実験ショーや応援コンサートなどが行われ、ものづくりに対する理解を呼びかけていました。

地場産のランチメニュー きたかみ牛ランチフェア

J A北上地域肉牛部会ビーフレディースとホテルシティプラザ北上が主催する『きたかみ牛』ランチフェアは16日から22日まで、同ホテルで開催されました。

地場産でありながら口にできる機会の少ない「きたかみ牛」をランチメニューに取り入れ、一般の人が気軽に食べられるようにという企画。白ゆりポークを使用した料理も合わせ、地元農産物のPRを行いました。

家族で訪れた小瀬川志津子さん(新穀町)は「地元の食材は学校給食でも使われているし、口にできる機会があっていいですね」と、食事を楽しんでいました。

初日のバイキングには「きたかみ牛の赤ワイン煮込み」が並びました



日ごろの訓練で防火意識 飯豊で春の火災防御訓練

春の火災防御訓練は1日、飯豊地区交流センター周辺で実施されました。当日は消防団や地区住民など約350人が参加。訓練は交流センター北側の山林から出火、折からの北西の風により延焼拡大し、飛び火などで周辺住宅にも延焼の恐れがある、という想定で行われました。

消防団による消火訓練のほか、地区住民を対象とした消火器での初期消火訓練、煙体験も実施。参加者は火と煙の怖さや、いざというときに慌てないためにも日ごろの訓練の大切さを改めて学んでいました。



訓練用の消火器を的を狙い、初期消火訓練をする住民の皆さん



助走台から一気に加速しプールの水面を滑走。落ちて水浸しの参加者も

冬季の夏油高原イベント スノーフェスティバル

夏油高原スノーフェスティバルは15日、夏油高原スキー場を会場に開催されました。夏油高原の冬季行事として、四季のイベントに加わるようになります。

13団体が参加した雪像づくりでは、色付けされたカラフルな雪像が立ち並びました。家族で参加した及川暢哉さん(藤沢)は「雪が固くて雪かきより大変」と、汗を流していました。第1回となる「マウントチャレンジ2009」では、全長15分のプールを水面滑走するウォータースプラッシュなどのコンテストが行われ、歓声が上がっていました。